

『佐賀市部活動地域展開会議』（第1回）

会 議 録

開催日	令和5年8月23日（水）	
開催時間	午後2時00分～午後3時40分	
開催場所	佐賀市立図書館 多目的ホール	
出席者	委員等	渡瀬座長、井上委員、水町委員、段林委員、伊東委員、眞崎委員、石橋委員、梅崎委員、江浦委員、池上委員、堤委員、代田アドバイザー
	事務局等	中村教育長、大松教育部長、横田副部長兼教育総務課長、吉次副部長兼学事課長、青柳副理事兼学校教育課長、大塚社会教育課長、白濱企画政策課長、江頭スポーツ振興課長、小林歴史・文化課長（オブザーバー） 島佐賀県保健体育課 SAGA 部活推進総括コーディネーター
議 事	<p>(1) 佐賀市における部活動改革の取組について</p> <p>(2) 意見交換</p>	
欠席委員	佐藤委員	
傍 聴 者	1名	

議 事

座長あいさつ

(座長)

今回の部活動の地域移行は戦後最大の教育改革だと思う。少子化が劇的に進行し学校の統合なども進む時代であり、中体連も合同チームなどの対応を進めているが、対応が間に合っていない。

県都である佐賀市の動向は周辺市町の関心も高い。困難な課題も多いが、子どもたちが中心にあることを念頭に、丁寧に改革を進めていく必要がある。平野部や山間部などの地域性の違いも踏まえながら、委員各位にアイデアをいただき、議論を進めていきたい。

(1) 佐賀市における部活動改革の取組について

○ 事務局説明

(事務局)

資料に沿って、市内部活動の現状、国県の動向、今年度の事業計画、課題等を説明

(2) 意見交換

(座長)

第1回でもあるため、委員から各自の取組などについて発言いただきたい。

(委員)

17、8年前に大学の附属中野球部を社会体育として立ち上げ、その後、活動をNPO法人化して行っている。地域移行の取組として先行的な事例になると思うので、その経験を会議の議論の中でお伝えしていきたい。

(委員)

バスケットボールのユースチームが立ち上がって3年目。競技力向上を目指して集まっている子どもたちで構成しており、毎年人数は増えてきている。

競技人口の減少が予想される中、競技力向上だけでなく、競技の普及の面でもお役に立ちたいと思っている。

(委員)

陸上競技の短距離を専門としたクラブを佐賀市で7年前に立ち上げ、現在1,500名の子どもたちを受け入れている。

佐賀、福岡、熊本13拠点で活動をしている。若い指導者が多いため、若い世代の指導者の声を集約して会議の中で発信できればと思う。

(委員)

部活動の機会は子どもにとって大事なものであり、地域移行はスムーズに進めるこ

とが必要だ。

平成28年に自校の教員に部活動指導のアンケートをとったところ、6割が休日も部活動を指導したいとの回答だったが、現在は1/4まで低下している。教育課題の多様化で学校現場も忙しくなっており、若手を中心に休日部活動に負担感を持つ教員が増え、ブラック職場との評価の一因となっている。

(委員)

今年度から大会参加について、中体連と同様に吹奏楽も複数校合同参加が可能となったが、佐賀県内では1校のみ、九州内でも合同チームは少なく、様子を見ているところ。

楽器の保管や練習環境など、学校が活動場所として最適である実情があるため、地域移行後の校舎の警備解除や指導者の確保等、課題が多いと感じている。

(委員)

現在、中学校陸上部で外部指導を行っている。中学校までで競技をやめてしまう子どももいるが、楽しく活動すること、生涯スポーツとして続けてもらうことが大切であると考えている。競技力だけでなく、あいさつなども重視して指導を行っている。

(委員)

スポーツ協会は、市のスポーツ関係の統一組織として、市民に対してスポーツの意義と楽しさを認識してもらい、健康増進につなげてもらうことを目的として活動をしている。

加盟団体と連携して様々なイベントやスポーツ教室の実施を行いながら地域スポーツの振興を図っていきたいと考えている。

(委員)

自分自身も野球経験者だが、競技人口の急激な減少が気になっており、部活動の地域展開で歯止めをかけることができればと思っている。

中学校の部活動は学校教育の一環であると認識している。地域クラブに移行した後も、部活動の教育的視点を引き継いでいく必要があると考えている。

(委員)

自分の子どもが通う中学校に陸上部がなかったため、地域クラブを立ち上げた。地域クラブ単独での活動は、指導者や練習場所の確保など苦勞も多い。地元の体育施設であっても市有施設は地元優先にならないため、地域移行を機に地域の実情に応じた施設利用の環境が整うことに期待している。

地元の中学校では、今年度から3つの部活動が新入部員の受け入れ停止となった。やりたい部活動がなく、入部しない子どもが半数近くいるが、好きな部活動をしている子どもと比べて表情がはつらつとしていないように感じる。

そこで、スポーツ・文化に限らず、子どもたちのやりたい活動の受け皿が地域にあればと考え、NPO 法人を立ち上げる準備を進めている。

全国で様々な取組が進められており、そうした取組も参考にしながら、地域の中で活動を進めたい。

(委員)

今年度から中体連も合同チームの参加資格を緩和したが、少子化で単独チームでの参加が難しくなることが予想される将来に向けて、中体連の存在意義が問われている。

今年の中体連で本校生徒が好成績を挙げてくれたが、長時間の練習漬けだったわけではなく、効果的な練習が結果に繋がったと感じている。これまでの常識だった長時間の指導ではなく、指導者のレベルアップとそのための体制づくりが求められていると思う。

佐賀県体育協会で業務をしていたときに、公認スポーツ指導者の有資格者のデータベースを作成したが、個人情報保護がネックとなり、データベースを活用することができなかった。今後、人材バンクの活用と個人情報保護の両立についても考えていく必要があるように思う。

(アドバイザー)

各自自治体で部活動改革が進まない理由は、当事者の子どもが不在のまま、部活動の成功体験を持つ大人が議論しているためである。課題が山積しており、どこから手を付けたらよいかわからなくなってしまっている。前向きな改革ではなく、議論が後ろ向きになってしまっている。

現在の部活動の課題として、①活動量が適切でない、②活動種目の選択肢が限られている、③主体的・内発的な活動となっていない、④勝利至上主義、の4点が挙げられる。こうした大きな課題は、学校だけの改革ではなく、まち全体で理想的な文化・スポーツ環境を創る「まちづくり」の意識がないと解決できない。

子どもたち中心の改革となるよう、子どもたちの声を聞き、子どもたちにフィードバックして改革のビジョンを作成することが必要だ。

SAGAアリーナというすばらしい施設があるので、施設を活用しながら地域を巻き込んだイベントを実施するなど、地域移行の「見える化」を行ってみることも有効ではないか。その際、スポンサーとして協力してくれる企業を探してみることも有効ではないか。

(委員)

改革の方向性について、「地域に根差した活動」として展開していきたいとの事務局説明であり、地域移行ではなく地域展開として独自性を出したい意向だと思うが、資料にある「地域で支えるスポーツ・文化環境」とは、休日の部活動の受け皿を地域に広げるというイメージなのか、地域行事を活動場所として子どもたちが参加するというイメージなのか。地域団体からは、地域行事に参加する子どもが減っているとの声もある。

(事務局)

現状の個別の学校部活動の枠組みのまま、地域を受け皿にしていくことは想定していない。学校部活動の枠組みだけでなく、多様な活動形態に変わっていきながら、校区に限らず、全市的に、異世代とも交流できるような地域展開を考えていきたいと考えている。

(教育長)

町民体育大会に社会体育クラブとして参加してもらい、クラブ紹介やクラブ対抗競走に出てもらったことがある。クラブのPRにもなるし、地域との連携にもつながった。こうした連携の手法もあるのではないかと。

(委員)

学校施設の開放が運動場や体育館に限定されている。学校図書館や空き教室の開放など先進的な事例があれば教えてほしい。

(アドバイザー)

体育館の鍵の管理をデジタルで行っている事例がある。

また、経済産業省のモデル事業として、学校施設内での広告掲示や校庭を駐車場として有料化するなど、学校施設の収益化に関する検討も始まっている。

吹奏楽の練習場所を教職員が施錠する必要がない管理棟以外に移す検討をしている団体もある。

(座長)

佐賀県内でも、管理職による施錠管理が不要な別棟にパソコン室を設置した学校の事例がある。

(委員)

地域移行においてネックとなるのは資金の問題だ。アドバイザーから企業と連携して部活動の地域移行を進めた事例紹介があったが、具体的にどのように連携し、実際に収益が上がったのか聞きたい。

(アドバイザー)

私に関わってきた学校では、L社とS社に協力してもらった。L社は人材派遣業を行っており、部活動の地域移行に関する運営と指導者派遣を請け負っている。S社は、学校施設の有料化のコンサルティングなどを行っている。校庭を駐車場として収益化し、その一部を自社の収入としている。

スポンサー企業の獲得は、企業メリットなどを地域ごとに考えて工夫していくことが重要だ。例えば、静岡県はプロチームや実業団を持つ企業が多いので、営業活動も兼

ねて部活動の地域移行に協力する企業が多い。

総合型地域クラブである福知山ユナイテッドは、Tシャツに掲載するスポンサー企業の営業活動の際に、洗濯したTシャツが干されて人目につく広告効果を説き、スポンサーを獲得したとのことである。

(座長)

最後に、本日の会議の総括をお願いしたい。

(アドバイザー)

委員の発言に前向きな意見が多く、佐賀市の部活動改革に明るい未来を感じた。短い練習時間や髪型など、高校野球の常識に変革をもたらした慶応義塾高校が話題だが、スポーツをどうやって楽しむかという視点で議論することが、部活動の改革につながると思う。今後の佐賀市の取組に期待したい。

(閉会)